

シリーズ『大学受験情報』第3回



【入学試験問題の性格】

入試で合格を勝ち取る学力とはどんなものでしょう。高校の通知表などに表れている成績とは、少し違うように感じられる方が多いのではないのでしょうか。

そこから、高校の授業だけでは大学合格は無理で、それ以外にかなりの時間をかけて受験勉強をしなければ、とても合格はできないとお考えではないでしょうか。

実は大学の入試問題は、一般的に考えられている以上に、高校で使っている教科書の内容にそって出題されています。特に、大学入試センター試験という「高校の教育内容にそった入試問題とはこういうものだ」という見本ができたので、少し前までよくあった「高校教育とは縁のない難問奇問」はほとんどみかけなくなりました。ですから入試問題を解く力の基礎は高校の教科書の内容であり、その教科書を使って行われる高校の授業をしっかりと受けることが合格への大前提となります。

もちろんそれだけで他にはまったく何もいらないというわけではなく、決められた時間内に確実に問題を解く練習とか、センター試験や多くの私大入試で使われているマークシート方式のテストに慣れる訓練、また難関国立大学の2次試験などの、かなり深い内容を含む問題への対

策など、受験する試験の性格によって付け加えなければならぬことはあります。しかし、それもこれもその基礎にある教科書の内容に対する理解がなければ、決して身につけることのできないものです。そのうえ、現在の高校普通科の授業内容は、かなり大学受験を意識したものになっているので、まずはこの授業を全面的に活用することが、効果的な受験勉強の第一歩ということになります。

【高校の授業の活用】

高校の授業は、予習をして臨むことを前提にしています。予習をせずに授業にでているだけでは、その内容を深く理解することはできません。そういう状態を続けていけば、そのうちにまったくわからなくなってしまいます。中学時代はほとんど予習をしなくても授業が理解でき

ていたために、かえって予習の習慣がつかず、高校に入ってからは成績が急降下……という事例もしばしば見受けられます。どんな生徒にとっても、予習して授業にでることは必要不可欠です。予習によって、授業で考えたり、理解したりするための準備ができます。その予習も教科ごとにいろいろと効果的なやりかたがあるはずで、いろいろ試行錯誤をくり返しながら自分の方法を確立できると良いのですが、それが難しいようであるなら、高校の先生に予習の仕方をたずねてみてはいかがでしょうか。

次に、予習はしたが授業中に先生の話をよく聞いていなかったり、眠たくなってしまふようではどうしようもありません。授業に集中できるように、ちゃんとコンディションを整えて出席することも非常に大切です。基本は6~7時間の睡眠をきちんととって、さらに朝ごはんをしっかり食べて登校することです。睡眠不足や朝食抜きで、精神論だけで授業に集中しようとしても、とてもできるものではありません。予習をして、コンディションを整えて授業に臨めば、自然と意気込みも違ってくるでしょう。そういう授業への取り組み方をしていると、授業の結論だけを覚えるというのではなく、しっかりと考えて理解しようということになります。このことが、いろいろと応用

調査書の学習成績概評

全体の評定平均値をA・B・C・D・Eの5段階に区分し記入する。区分は以下のとおり。

全体の評定平均値	段階
5.0~4.3	A
4.2~3.5	B
3.4~2.7	C
2.6~1.9	D
1.8以下	E

なお、学習成績A段階に属する者のうち、人物・学力ともとくに優秀で、学校長が責任をもって推薦できる者については◎と標示することができる。

偏差値

得点を、その分布の平均値が50、標準偏差が10となるように変換したもの。偏差値は、元の得点分布の平均値と標準偏差を用いて、

$$\text{偏差値} = \frac{(\text{得点} - \text{平均値})}{\text{標準偏差}} \times 10 + 50$$

として算出されます。これによって平均点や問題の難易度が違っても、ある集団のなかで自分がどのくらいの位置にいるかという情報が同じ尺度の数字であらわせるようになります。大学ごとに問題が違ったり、試験科目や配点の異なる入試で、合格の可能性をはかるには便利な数値です。ただし、偏差値の基準となっている母集団が変わると、数字の意味も変わってきますのであまり固定的にとらえずにいいほうがいいでしょう。

が可能で、しっかりと基礎学力の形成へと確実に繋がっていきます。

授業活用の仕上げは復習です。予習と復習が大事などという、あたりまえ過ぎてがっかりされるかも知れませんが、やはりこれが学力形成の王道なのです。予習をすることで、授業中に頭を働かせて理解することができるようになりますが、せっかく理解しても、それだけではしばらくすると忘れてしまうことができます。復習は知識を定着させるために必要なことです。予習や授業のなかで、これは大切だと思ったところや、先生が覚えておくようにと指示されたところに印をつけておいて、その日のうちに紙に何回か書いてみるのが良いでしょう。二度と忘れないように徹底的に覚えて……と思うと、りきみ過ぎてしまいます。4、5回紙に書けばいいは覚えてしまえずし、少し忘れかけても定期試験の前などにもう一度おさらいをしておけば大丈夫です。

【実戦的な力を身につける】

こうして基礎力をしっかりとつけたら、問題演習で点検と確認をしながら、実戦力をつけていくことが次の課題となってきます。この部分が狭い意味での受験勉強ということになりますが、かける時間

の長さでいえば、授業とその予習・復習の時間の方

がずっと長くなるでしょう。ここでの問題演習とは、教科書にでてくる例題や練習問題にはじまって、入試用の問題集、志望大学の過去の入試問題、模擬テストなどが含まれます。受ける予定の試験がセンター試験なのか、2次試験なのか、または私大入試なのかによって、取り組む問題が当然違ってきます。

また問題の練習量は多いほうが良いのですが、むやみに多く解こうとして、乱雑になっては効果薄となります。解けなかったり、間違えた問題は、もう一度教科書や参考書に戻ってしっかりと確認しておく必要があります。模擬テストなどは、かなりいいねいな解答解説がついているので、これをしっかりと利用することが効率的です。

国立大が第一志望で私立大も併願するという人は、何種類もの試験を受けることになりますが、そのすべての種類の問題に取り組む必要はありません。一般的には、2次試験、私大入試、センター試験の順で問題がやさしくなりますので、共通する科目は、難しい試験に照準をあわせた問題演習が中心になります。ただし、マークシート方式の試験は出題形式が独特ですので、そのための練習も必

要です。マークシート方式の模擬テストを受けたり、12月からセンター試験直前までの時期には、センター試験タイプの問題に、時間を計って取り組むなどの対策が有効になります。

こうした傾向対策や技術的な練習は、予備校などの得意分野でもありますので、予備校の講座や模擬テストを利用するという方法も良いでしょう。

